# 義太夫

義太夫協会々報
第２２号
昭和56年1月27日
社団法人　義太夫協会発行
〒104　東京都中央区銀座
8-14-3 松本ビル
TEL　（541）5471

## 義理人情は永遠のテーマ

義太夫協会会長　吉川英史

ことしは酉（とり）の年です。わたしは年男、竹本土佐広さんは年女であります。辛酉と書いて「カノト　トリ」と読める人は、もう少なくなりました。しかし、年賀状に鳥の画を書いたり、鳥に因んだことを書いて下さった人は非常にたくさんおられました。いちがいに一九八一年が新しくて、酉の年が古いともいえないようです。

古いといえば、「義理人情はもう古い」という声をよく聞きます。義理人情を中心テーマにしている義太夫節にとって、これは聞き捨てならぬ言葉です。しかし、そのようなことをいう人は、義理人情の本当の意味を知らない人なのです。テレビで「義理人情に流される」という言葉を聞きましたが、これなども本当の意味を知らない人でなければいえない言葉です。

義理と人情を似たもの、同類のものと誤解している人が多いようです。だから、「義理人情に流される」などというのです。「人情に流される」とはいえますが、「義理に流される」とはいえないはずです。義理と人情とは相反する異質のものであります。

久松がお染を愛する心は人情です。お染を山家屋へ嫁がせようとしている主家の方針に従わねばならぬのは義理です。養父の娘お光と結婚しなければならないのも義理です。義理は「ねばならない」ことであり、人情は「したい」ことであります。

長年世話になった人の旧悪が露見したけれども、その恩義を尊重して投票するのは義理であり、そのような人には義理を欠いても投票したくないと思うのは人情であります。命よりも大切と思うペットのライオンを手放したくないと思うのは人情であり、世間を考えると手放すより仕方がないというのは義理であります。たくさん月給をくれる会社に勤めたいのは人情であり、月給は少なくても親を引き立ててくれた社長の会社に入社しなければならないというのは義理であります。自分の研究のために会長をやめたいと思うのは人情であり、会のことを考えると簡単には辞められないというのは義理であります。

義理と人情は、他人の目↕自分の心、立前↕本音、意志↕感情、他人本位↕自分本位、という対立関係です。義理と人情は人間社会の永遠のテーマであります。

竹本義太夫は前名を清水理太夫と申しました。義太夫協会が毎年の年末に回向院で義太夫節の祖先祭を執行していますのも、さすがと思い当たる次第です。酉の年に当たり、義太夫協会と義太夫節保存会の飛躍的発展を祈ります。

社団法人義太夫協会法人化十周年
義太夫節保存会設立
重要無形文化財総合指定

# 記念行事について

旧臘催されました記念行事は、予期以上の成績を収めることが出来たと思いますが、これも偏えに会員皆様の強力なお力添えあってのことと始めに厚く御礼申し上げます。

本来は、協会法人化十周年を記念してということで、この様な大がかりな行事の予定ではなかったのですが、昨春、降って湧いたような義太夫節保存会の設立、そしてその会員が国の重要無形文化財に総合指定されるということになり、それには協会と保存会が共催で記念行事を行おうということになった訳でございます。その企画は(1)記念パーティー、(2)東京・大阪・名古屋の保存会々員出演に依る記念大演奏会、(3)協会々員による記念演奏会、(4)「義太夫節略年表」の刊行等でありました。

(1)の記念パーティーは、昨年12月2日、午後6時より東劇ビル18階のスカイサロン「エスカルゴ」に於いて行われました。先ず吉川英史協会々長と豊沢仙広保存会々長の御挨拶、そして佐野文一郎文化庁長官の御祝辞を頂き、ついで犬丸直国立劇場理事長(前文化庁長官)の音頭で乾杯。その後、郡司正勝国立劇場理事、坂本朝一NHK会長の代理として山岡知博様、松島庄十郎芸団協常任理事、河野国声協会相談役の方々に御祝辞を頂きました。邦楽、演劇関係の代表の方々も多数お見えになり、義太夫愛好の方々、そして協会々員も大勢出席致しましたので、稀にみる盛会となり8時にめでたく散会となりました。

祝賀会場にて，左より　犬丸国立劇場理事長・佐野文化庁長官・吉川会長　（写真 戸叶琢通氏）

(2)の大演奏会は、日本橋三越劇場にて12月6日、午後一時開演。大阪より五名、名古屋二名、東京十七名、計二十四名が出演しましたが、この様な顔ぶれが揃うということは空前のこととあって評判を呼び、立見が出る程の盛況となりました。演奏の間には、協会・保存会両会長の御挨拶、犬丸直国立劇場理事長・有光次郎芸術院々長・松尾武市大日本素義会代表の御祝辞を頂きました。90才になろうという団司・春駒さん、そして土佐広さん他の熱演はNHKが収録しましたので、順次放送される予定です。（熊谷陣屋は12月29日に放送されました）

(3)の協会々員による演奏会は、本年4月20・21日の本牧亭公演に於て行われます。賑やかな会といたしたく、後日御案内申し上げますので、よろしくお願い申し上げます。

(4)の「義太夫節略年表」は、A5判約五十頁、半年がかりで作られ、パーティー、三越劇場に見えたお客様、関係団体、そして協会々員全員に記念品としてお贈りすることが出来ました。誠に好評で、各処で教材として使用したいのでという引合いが来ております。編纂の中心となられた景山正隆氏、印刷の高野俊雄氏と高野印刷所の皆さんの御尽力に深く感謝申し上げます。

記念公演「堀川」左より　団司・春駒・住友・重輝の各師（写真　田香隆氏）

# ごあいさつ

義太夫節保存会々長
義太夫協会副会長　豊沢仙広

明けましておめでとうございます。皆々様、御無事によき年をお迎え遊ばしたこととお祝い申し上げます。

昨年は、正会員一同よい年を過ごさせて頂き、年末二十六日の祖先祭には一同大喜びで、今後は益々勉強をと張り切っております。

協会法人化十周年を迎えた昨春、選ばれた三十人で義太夫節保存会が設立され、それが国の重要無形文化財に総合指定されました。十二月二日の祝賀会、六日の三越劇場での記念公演と、いずれも賑々しく御来場賜り、身にあまる光栄と、一同の喜びはいかばかり、これも偏えに御ひいき皆々様の御後援の賜と、厚く御礼申し上げる次第でございます。

十二月二十日・二十一日のNHK心身障害児の為の慈善公演とお名残り公演、二日とも大入満員でしたのは、協会並びに保存会の理想・趣旨を皆々様が御理解下さったおかげと、重ねて御礼申し上げます。

今後は、一同芸をみがき、国立劇場での公演、名古屋・大阪での公演も企画し、義太夫節の発展向上・後継者育成などに、命がけでとりくみたいと思います。

今後いかにしたらよいか、協会会員御一同様を始め御ひいきの皆々様、よろしく御指図を賜り、よりよき御指導下さいますよう、伏してお願い申し上げる次第でございます。

## 保存会の動き

［昭和五十五年］

12月2日　義太夫協会社団法人化十周年・義太夫節保存会設立記念祝賀会（共催　義太夫協会　2頁参照）
於東劇スカイサロン・エスカルゴ

12月6日　義太夫協会社団法人化十周年・義太夫節保存会設立・重要無形文化財総合指定記念演奏会（共催　義太夫協会　2頁参照）
於日本橋三越劇場

［昭和五十六年］

1月19日　役員会　於新小松

## ラジオ放送御案内

2月15日（日）　同22日（日）　6時15分
NHK第一　三越記念会より収録
堀川　団司・春駒・重輝他

## 記念行事への御寄付

| | |
|---|---|
| 新小松様 | 100,000円 |
| 河野国声様 | 30,000円 |
| NHK厚生文化事業団様 | 20,000円 |
| 春日とよ春妙様 | 20,000円 |
| 竹本　越道様 | 20,000円 |
| 竹本　土佐広様 | 20,000円 |
| 安田　喜一様 | 20,000円 |
| 内野　正幸様 | 10,000円 |
| ＮＨＫ音楽部様 | 10,000円 |
| 小原　浦次郎様 | 10,000円 |
| 片岡　みどり様 | 10,000円 |
| 新内協会様 | 10,000円 |
| 高野　俊雄様 | 10,000円 |
| 鶴沢三生・竹本駒之助様 | 10,000円 |
| 日本芸能実演家団体協議会様 | 10,000円 |
| 妣田　圭子様 | 10,000円 |
| 本牧亭様 | 10,000円 |
| 松島　庄十郎様 | 10,000円 |
| 山中　豊様 | 10,000円 |
| 和田　博様 | 10,000円 |
| 今西・京田様 | 5,000円 |
| 坂本　イマ様 | 5,000円 |
| 島　春栄様 | 5,000円 |
| 高野　喜代子様 | 5,000円 |
| 竹内　道敬様 | 5,000円 |
| 竹本　勝昇様 | 5,000円 |
| 竹本　越春様 | 5,000円 |
| 鶴沢　金吾様 | 5,000円 |
| 寺中　作雄様 | 5,000円 |
| 中井　智慧子様 | 5,000円 |
| 中村　東蔵様 | 5,000円 |
| 日本俳優協会様 | 5,000円 |
| 日本放送芸能家協会様 | 5,000円 |
| 竹本　土佐子様 | 3,000円 |
| 鶴沢　寛乃佑様 | 3,000円 |
| 河野　国声様 | 1,000,000円 |

| | | |
|---|---|---|
| NHK会長　坂本朝一様 | 生花 | 1基 |
| 河野　国声様 | 〃 | 1基 |
| 新橋松の会様 | 〃 | 1基 |
| 鈴木　一光様 | 〃 | 1基 |
| 高橋　山月様 | 〃 | 2基 |
| 大日本素義会様 | 〃 | 1基 |
| 東海大学総長　松前重義様 | 〃 | 1基 |

# 日本の国宝芸術　義太夫を讃美する

河野国声

義太夫が世界一の声楽であることは、独りよがりで自画自讃するのではありません。義太夫は熱心に稽古して骨の髄まで語ってみねばその価値はわかりませんが、技巧や器用さくらいでその極に達し得るものではありません。全く命がけで、生命を燃し切り、常識を空じ去り、肉体が義太夫そのものに成り切らねば、真の語り手とは成り切れぬ生きた禅芸術なのです。昔の名人達の精進振りなどを聞くとき、狂人とも思われるほどの熱心さで工夫し続けた大芸術で、人間のいのちの最高の叫びだと思います。私は義太夫は魂の芸術だと申して居りますが、身命を賭けて人間の真髄を語る命がけの芸術だと思って居ります。だから義太夫そのものが日本の国粋芸術で、現代の太夫さんや三味線弾きさんが、人間国宝であるのは先祖のおかげだと思います。現在も人間国宝に指定されて居る方々が何人も居られますが、義太夫の真髄真価から申せば、その荷は重すぎると思います。現代の義太夫芸能者にも何人かはうまい人が有りますが、先代の津太夫・土佐太夫・古靱太夫の芸域まで達して居る人がありませんから淋しいものです。義太夫の真価真髄は、生きた禅・人間の最高無上の表現術として、上も無く底も無いという真剣真実の真理と心理の大芸術なのです。

最近、八十歳になってから、仙広師の宅で、肉体の表現力と健康度をためしてみようと、毎週日曜日に猛稽古を始めたため、また昔のくせが出て、義太夫界の振興、発展にまで口を出したくなってしまいました。

それはまた豊沢仙広師の斯道に対する情熱の烈しさに打たれたからでもあるのです。この仙広という女傑は義太夫の専門家としても第一人者ですが、人間性、人物の偉さではまさに男勝り、大変な度胸と知恵と人徳、実行力の人です。終戦後古靱から離れた四代清六を援けて東京で師の晩年に影の応援者として有名、さらに衰微しかけた東京の義太夫界を今日までに興隆し、義太夫協会を大きくし、今回の義太夫節重要無形文化財総合指定をさせたり、義太夫の有名者に多くの叙勲者を出したりしたその影の働きは、枚挙に遑ないほどで、師の顔のきくことと、信念や押しの強さには、大ていの政治家も実業家も動かされるこの気力には驚くべきものを感じさせられます。

義太夫協会十周年の祝賀会と併せて
義太夫節の重要無形文化財保存会を祝して

私は昔の義太夫界の隆盛を知って居るだけに最近のさびれ方をなげいて、何とかして義太夫の価値を世に知らせ、盛んにしたいものと思って居るだけに、義太夫に関しては、今までに折にふれ十数段もの録音テープに、その意味や稽古法、上達法を吹き込んで居るし、八十三才になっても、床で語って人に聞いて貰うより、仙広師と稽古するときの一回一回に気を入れ、魂を込めて、必死の練習を致して居ります。仙広師も古靱・清六の録音テープを毎日のように細かく聞いて、弾いてくれるので、既にあの世に去った両師が、今でも生きて居て私ら二人に語りつ弾きつ稽古して下さるようなもので、日本一の名人二人を抱え切ってお稽古のできる幸せを、いつも話し合って喜んで居りますが、録音テープで稽古などができるものかなどと思い込んでいる人

びとの不熱心さと無認識を惜しいことだと思います。

昔、私は若いのに金儲けの気運に乗って居たので、素義で通して、古靱師とは生涯特別の仲が続いたので、思い出は山々あります。従って古靱師の遺品は沢山ありますが、杉山茂丸鞍馬先生から伊藤博文公に、何冊かの床本を送り、博文の義太夫稽古が世に出ぬまま再び鞍馬先生から古靱に譲られ、それが裏書つきで私の手に保存されて居ります。博文公の長唄師匠は、稀音家義丸夫人の老父だったことなどから見て、千円札さんも少しは語ったのかもしれません。

禅と義太夫、事業と義太夫の矛盾に当惑

私は十七才から禅を習い、二十四才から独立して事業を始めたが、義太夫を習うと面白くて楽しくて、禅も仕事も手につかない。これには困って何回か義太夫を止めました。そのために今でもうまく成らずに終りましたが、一時は文楽にはいろうかなどと思ったこともありました。しかし、結局は下手でよかった、素人でよかった、義太夫にかける情熱を、事業にかければ仕事にも成功するし、発明もできるとして、昭和十二年から全五十三年までの四十年間、義太夫の稽古をいいかげんにして現在の研究事業に成功したのです。

義太夫は人間の肉体の全力全霊をつくして技巧にして技巧に非ざる真剣、命がけの表現芸術で、嘘から出たまことながら、嘘や作りごとの効かぬ「いのちの叫び」であって、世界の芸術にその例は無いものなのです。静かな禅に対して、動きの禅、生きて働く禅、真実真理の禅で、心で作る禅でないのです。ここに故人の逸話の多いゆえんがあるのです。私は早くから義太夫禅の仕方を提唱して居りますが、八十三歳になって古靱の忠四を仕上げてみて、益々その感を深めて居ります。

NHKや国立劇場へ願いたきこと

右の御両所には、義太夫の珍品各種が山ほど所蔵されて居る筈ですから、これを安価で売り出すか、義太夫協会か保存会を通じて貸出し、日本の国粋芸術義太夫節普及のために、大きく開放して頂きたいのです。

義太夫節の名人上手が次々と死に絶えて行く淋しい時代に、NHKや国立劇場が、その至芸を秘蔵するだけでは、芸術を眠らすようなもので、勿体ないことだと思います。太棹の音は腹に響く、日本の三味線ほど心を打つ楽器は世界にはありません。太棹の三味線作りが無く、三弦の名手も少い日本の淋しさ、せめて故人の名曲の解放を願いたいのです。

義太夫節発展のために、どうか応援をお願いする次第であります。

## 御寄附　金五拾萬円也

毎年夏、神宮外苑で行われる「日本の祭り」は年々盛大に催されており、昨年で十回を迎えましたが、その「日本の祭り」実行委員会（フジサンケイグループ）より、文化庁を通じて浄財金五拾萬円が協会に寄附されました。有難く厚く御礼申し上げます。

## ✿本牧亭正月公演から✿

一月二十一日夜、本牧亭公演に於いて、竹本土佐広・豊沢仙広演奏の「心中天網島　河庄の段」を聴かれた一ファンから「誠に素晴らしく感激しました。お二人に差し上げて下さい」と、金拾萬円を頂載いたしました。ファンの方、どうも有難うございました。

### 義あり人あり未来あり

重なる慶事を記念して、賛助会員の室屋政弥氏から右の標語を御寄贈いただきました。

## 協会の動き

昭和55年11月より
昭和56年1月まで

［昭和五十五年］

11月20・21日　義太夫協会公演会　於本牧亭

11月22日　第一回賛助会員意見交換会開催（7頁参照）　於新小松

12月2日　義太夫協会社団法人化十周年・義太夫節保存会設立記念祝賀会（義太夫節保存会共催　2頁参照）　於東劇スカイサロン・エスカルゴ

12月2日　「義太夫節略年表」記念刊行

12月5日　邦楽連合会　於古曲会

12月6日　義太夫協会社団法人化十周年・義太夫節保存会設立・重要無形文化財総合指定記念演奏会（共催　義太夫節保存会　2頁参照）　於日本橋三越劇場

12月16日　忠臣蔵総稽古　於新小松

12月20日　第十回心身障害児のための慈善公演　共催　NHK厚生文化事業団（7頁参照）　於本牧亭

12月21日　昭和55年お名残り公演　前日同様仮名手本忠臣蔵を総出演にて演奏。賑かに手〆で年おさめ。於本牧亭

12月26日　昭和55年度祖先祭　読経後、懇談会。新人正会員　豊沢朝子・野沢錦鈴の披露を行う。　於回向院

12月26日　仕事おさめ

［昭和五十六年］

1月6日　仕事はじめ

1月19日　定例理事会　於新小松

1月20・21日　義太夫協会公演会　於本牧亭

1月27日　会報第22号発行

## 特別会費二口以上の方

（54年4月1日～55年3月31日扱い分）

| | | |
|---|---|---|
| 内野　正幸様 | （54年度10口） | 五〇、〇〇〇円 |
| 菅　邦夫様 | （54年度4口） | 二〇、〇〇〇円 |
| 石塚　晃玉様 | （55年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 井上　一二様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 小田切一鳳様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 加藤　利一様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 加藤　道子様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 景山　正隆様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 〃 | （55年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 菅野　光雄様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 品川　欣司様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 菅原　大常様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 鈴木　一光様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 高野　俊雄様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 都築　健一様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 森　寿美様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 横山　敏雄様 | （55年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |
| 和田　博様 | （54年度2口） | 一〇、〇〇〇円 |

## 訃報

■竹本雛太夫師（正会員）55年2月29日逝去
（竹本初の人間国宝でありました）

■吉田幸三郎氏（顧問）55年3月7日逝去
（永年協会のため力をお尽し下さいました）

■国森鳴門氏（特別会員）55年3月30日逝去

■岡田蝶花形氏（賛助会員）55年7月12日逝去

■竹本綾千代師（正会員）55年10月2日逝去

■竹本素康師（正会員）55年10月7日逝去

## 批評の提唱 —蝶花形氏追悼—

別報のとおり、おかちょう氏こと道一（みちかず、号蝶花形）先生が亡くなった。先生は、京大医学部を卒業し東京市衛生技師になり、大正六年に旧麹町区内七高の校医になったが、その提唱した校医、衛生婦（現養護教諭）、林間・臨海学校は、のちにいずれも制度化しひろく実施され、経験に基く「学校衛生に関する研究」で医博になった。また竹久夢二の顕彰に努めたことも有名だが、これらの業績について記すのは他の人に譲ることとし、ここでは、批評を提唱し実行し続けて義太夫界に尽力したことを述べたい。氏に対する評価は毀誉褒貶の落差が大きいが、次のような非難があった。

一、禁酒運動をし酒を飲むのはおかしい。

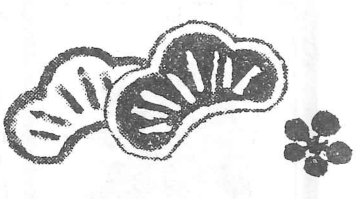
二、言葉遣いが横柄で人を見くだす。

三、義太夫の語りが下手だから、人の語りや三味線を正しく批評できるはずがない。

四、末梢的な部分の語りばかり指摘する。

これらはいずれも正鵠を射ているであろうか。否、実はみな当たっていないのである。（続く）

社団法人義太夫協会監事　佐々木　明郎



第10回
心身障害児のための
慈善公演会
## ―決算報告―

義太夫協会の社団法人化とともにスタートした慈善公演も回を重ねること十回、おかげさまで今回も左の通りの成果をあげることが出来ました。各方面からの御協力、有難うございました。

尚、今回も、プログラム・切符等の印刷一切は、協会相談役の高野俊雄様がおひきうけ下さいました。併せて御報告いたします。

<収入の部>

| | |
|---|---|
| 会場募金箱（20・21日） | 49,967円 |
| 当日入場料 | 18,000円 |
| 出演者扱切符代 | 38,400円 |
| 協会扱御寄附 | 376,000円 |
| <内訳> | |
| 土佐会様 | 100,000円 |
| 新小松御一同様 | 50,000円 |
| 小田切一鳳様 | 30,000円 |
| 加藤　聚楽様 | 20,000円 |
| 新橋組合様 | 14,000円 |
| 内野　正幸様 | 12,000円 |
| 石塚　晃玉様 | 10,000円 |
| 河野　国声様 | 10,000円 |
| 佐伯　勇様 | 10,000円 |
| 坂本　朝一様 | 10,000円 |
| 菅　邦夫様 | 10,000円 |
| 鈴木　一光様 | 10,000円 |
| 寺中　作雄様 | 10,000円 |
| 姚田　圭子様 | 10,000円 |
| 松尾　武市様 | 10,000円 |
| 宮脇　雪むら様 | 10,000円 |
| 横山　敏雄様 | 10,000円 |
| 渡辺　兼造様 | 10,000円 |
| 中村　初波奈様 | 5,000円 |
| 竹本　扇太夫様 | 5,000円 |
| 前田　繕子様 | 5,000円 |
| 和田　博様 | 5,000円 |
| 岩井長太郎様 | 3,000円 |
| 落合　藤子様 | 3,000円 |
| 鶴沢　重造様 | 2,000円 |
| 金原　ふじ様 | 1,000円 |
| 和田　まつ様 | 1,000円 |
| 収入合計 | 482,367円 |

<支出の部>

| | |
|---|---|
| 心身障害児の為の寄附金 | 200,000円 |
| 本牧亭席料他諸掛 | 60,250円 |
| 通信費 | 89,180円 |
| 交通費 | 2,990円 |
| 床世話・荷上 | 52,000円 |
| 謝礼・祝儀他 | 58,200円 |
| 総稽古諸経費 | 5,200円 |
| 諸雑費 | 14,547円 |
| 支出合計 | 482,367円 |
| 差引残 | 0円 |

## 賛助会員意見交換会開かる

協会設立以来初めての試みでしたが、大変有益な示唆にとむ御意見、耳の痛いお叱り等々、こんなにも協会のことを思って下さるのかと感激いたしました。有難く今後の参考にさせて頂きたいと思います。

出席者（敬称略）小原浦次郎・河野国声・古賀進・菅原大常・竹村謙介・寺沢正夫
中島古平・室屋政弥・湯浅光玉・和田博
渡辺兼造・会長・副会長他協会役員

当日の御発言からいくつか――（順不同）

。企画がマンネリ。新作、復活上演、男性の出演等もっとアッピールする企画を。

。公演・行事の通知が遅すぎるので、宣伝したくとも時間が足りない。

。物価上昇にみあう会費値上げも止むを得ないのではないか。

。十年という節目にあたり、運営の要である定款を点検する必要があろう。

。一番欠けているのがPR。もっと宣伝して協会の活動が常に人目に触れているのが望ましい。今は宣伝の時代だ。

。協会の力になりたい気持はやまやまなのに十年間、総会に呼ばれたこともなかった。どうしたら役に立てるのかが判らない。

。若い層にアピールするためにも、（極端なものもあろうが）若い意見を採用されたい。

。固定客も大事だが、例えば「ホール義太夫」等で、新しい客をつかむべきであろう。

。玄人・素人を問わず、全国の義太夫関係者が協会に加入しているのか。開拓されたい。

。会報が年三回では不満。貴重な紙面をもっと有効に使ってほしい。

## 新入会員御紹介（敬称略）

### 正会員

[redacted]

### 賛助会員

[redacted]

### 準賛助会員

[redacted]

## 住所（住居表示）変更

[redacted]

## 寄附（昭和54年度）

—昭和54年4月〜昭和55年3月—

（特別会員・賛助会員の部）

| | |
|---|---|
| 鈴木　一光様 | 一〇〇、〇〇〇円 |
| 河野　国声様 | 四〇、〇〇〇円 |
| 松尾　武市様 | 三〇、〇〇〇円 |
| 小田切一鳳様 | 二〇、〇〇〇円 |
| 市川　純子様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 内野　正幸様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 品川　欣司様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 高野谷秋始様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 八木太呂夫様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 和田　博様 | 一〇、〇〇〇円 |

（御報告が遅れ申し訳ありませんでした）

'81都民芸術フェスティバル
## 邦楽演奏会

3月8日（日）昼12時夜4時半開演
於第一生命ホール　一、五〇〇円
義太夫は、昼「伊賀越・沼津里の段」土佐広・仙広他　夜「同・平作内の段」重之助・三生他が出演致します。
お申込・お問合せは事務局まで

## 寄贈

内野正幸様　肩衣、袴　十五組
土佐会様　肩衣　十枚

早速、師走公演及び記念公演にて使用させて頂きました。有難うございました。

## お見舞

協会相談役の小田切一鳳さんが、骨折のため、昨年より木挽町医院（歌舞伎座ウラ）に御入院中です。一日も早く、また本牧公演にお越しになれますように—

## 編集後記

明けましておめでとうございます。昨年は激動の80年代の幕あけか(?)義太夫界も大忙しでした。保存会独自の会誌ができるまで当分の間、保存会の活動も追々お知らせしたいと思います。

昨年の賛助会員懇談会で、紙面の無駄を指摘され大いに反省させられました。今後もよきアドバイスをお願い申し上げます。